

食で代表をアシスト

ふくしま発「未来」

2018年サッカーワールドカップ(W杯)ロシア大会への出場を目指す日本代表。広野町でシェフをしている西芳照さん(56)は代表の海外遠征にシェフとして同行し、選手を食事の面から支えている。5班の6人は1日、西さんから日本代表や本県への思いを聞いた。西さんは「スポーツを通して福島を盛り上げるためにも、代表のW杯出場をサポートしたい」と思いを語った。(鈴木)

西さん「勝利呼ぶ料理を」

Jヴィレッジ(楡葉、広野町)で総料理長を務めていた西さんは現在、広野町のレストラン「アルパインローズ」、イオン広野店の中にある「CUCCINA(くっちいーな)」を運営。04年からサッカー日本代表の海外遠征に同行している。その主な仕事は調理器具、食材の衛生管理をすること、代表選手のためにさまざまな料理を作ることだが、その料理



広野町のレストラン「アルパインローズ」で、子どもたちの質問に答える西さん(撮影・林)



「くっちいーな」で、笑顔で話す西さん(撮影・林)

ハリルJの勝負メン
西さんが遠征に同行して代表の料理を作る。試合終了後、30分以内におにぎりを1個。その後1時間以内で激しい運動で傷ついた筋肉を治し疲労回復のため良質なタンパク質を摂るように、カレーを提供している。(金子)

- 本田選手はパプリカ大好き!?
- 違いがわかる男 岡崎選手
- 長友選手の銀だら西京焼き

には西さんの思いと工夫があった。バイキング形式で出す料理はあらかじめ調理をするため、選手が食事を冷めた状態。以前は食事を終えた選手がすぐに部屋に戻ってしまうことが多くあったそうだ。そこで西さんは「温かい料理を食べる元気を出して欲しい」という思いから選手の目の前で料理をするライブクッキングを始めた。できたてのおいしい料理を食べることで笑顔が生まれ、選手間のコミ

震災後の今

Jヴィレッジは震災後、福島第1原発事故収束の最前線基地になった。Jヴィレッジのレストランで総料理長を務めていた西さんは、原発作業員向けの食事を出すようになった。西さんが、原発の作業員の方々に温かい食事を提供していたのには二つ

日本中を笑顔に

西さんの夢は、日本代表のW杯出場、Jヴィレッジが元通りになり、以前の風景を見ること、そして、いつかキッチンカーで全国を回ること。どの夢にも西さんの優しさや、福島だけでなく、日本中を笑顔にさせようとしている気持ちが伝わっている。(清野)

私たちが作りました



- 鈴木 拓磨 (あさか開成高3年)
- 金子 正斗 (会津学鳳中2年)
- 國分 咲良 (富田中2年)
- 林 琉聖 (湯本一中1年)
- 清野 沙羅 (中央台東小6年)
- 久住 涼真 (湯本二小5年)

理由がある。一つ目は、「少しでもおいしい料理を食べてほしい」。二つ目は、「少しでも早く復旧してほしい」という気持ち。震災直後も今も「料理を作る」という気持ちは変わらず、福島の復興に貢献し、おいしい料理を作り続けている。(國分、久住)

いう西さんの優しい思いがあったからだ。震災後、風評被害などにより県内の野菜や米は売れなくなるなどした。そのため、以前と比べて収入が少なくなってしまう人もいた。そこで、西さんは、地元の方々の生活が少しでも豊かになるようにと料理を作る際には地元産の食材をなるべく多く使うことを心掛けていた。